



# 現象と解釈 好きと嫌い



SE

## 本音

---

本音を書くと皆んな引いてしまうかもしれない。

でも、本だからいいか。

まず、全ての人に共通する絶対的な正義や悪は無いと思う。

つまり、西洋的な神はどうしても受け入れられない。

まず、人間が何か特別な生き物と思っている人が多いようだが、私はただの動物と変わらないと思う。

植物や動物の優劣も無く、生き物や物質の区別も意味が無いように思える。

つまり、この世の中は優劣も無く意味もない。ただ、物質が存在しているだけ。ただ、時が流れているだけ。

ひょっとすると、それすら怪しい。

「我思う故に我あり」

そういうことだろう。

私の考えでは、意識というものは何にでもあると思っている。

私に意識があるように、蛙にも草にも木にも石にも意識があるように思えてならない。

いわゆる擬人化に近いと思うが、現実的にそんな気がする。

また、私に意識があると思っているが、実は私は意識の集合体だと思っている。

私を構成するいろいろな部品、それぞれに意識が存在する。例えば、心臓くん、唇くん、白血球くん、細胞くんなど、いろいろな切り方によって自由に組み合わせたかたまりごとに意識が存在する。

また、私や他の人が集まれば、そこには意識が存在し、それらは本質的に区別が付けられない。

いつもこう思う。地球くんは、こんな事を考えている。

地球くん曰く

まったく、環境問題って人間は何を言っているの？偉そうに。地球環境を守ろうなんて、チャンチャラおかしい話だよ。温暖化だって。放射能だって。私（地球くん）には何でもないんだよ。だって、人間がいたっていなくたって、私には痛くも痒くもないよ。人間にとって、ノミやダニが直接生活に関係ないのと同じ。私にとって人間なんて意味ないんだよ。それを偉そうに地球のためとか言わないで欲しいよ。地球のためじゃなくて自分たちのためでしょ。ごまかさないうで本音で生きてほしいね。

## 意味なんて無いんだよ

---

人間は他の動物とくらべて器用かもしれない。

ただ器用だからといって、特別なわけでは無い。例えば鳥は空を飛べるし、魚は水の中を泳ぐことが出来る。それと同じで、人間は器用にいろいろなものを作れる。また、考える。

ただ、この器用さが自分自身の首を絞めている。

人間は、物語（理由、理屈）が無いと何か物足りないようだ。

（ひょっとすると人間以外にもそんなのかもしれないが、とりあえず人間だけの話にしておく。）

これは、本能のような気がする。人間という種の特徴だと思う。

人間は脳に支配されている、脳に逆らうのはなかなか難しい。

脳みそは常に刺激を求めている。それは、好奇心だ。この好奇心を満たすために、人間はいろいろなものを作ってきた。人間が作ってきたものの中に価値観もある。わからないものを理解するためにいろいろな物語も作り上げた。

その中の1つが、魂という考え方だ。ひょっとしたら、あるのかもしれないが、私がまず気に入らないのは、人間が特別という宗教的な背景だ。地獄に落ちるとか、悪いことをすると違う動物になるとか、思い上がりもいいところだ。

では、なんでこのような考えになりやすいか。

答えは脳が喜ぶからだ。脳にとってこのような考え方は、非常に刺激的でご馳走なのだ。

この状況で、そんなの無いよ。と言っても、まったくとり合ってもらえない。

何故か？答えは簡単。脳に対して「そんなの無いよ」は実に退屈でつまらない物語だからだ。

なので、「そんなの無いよ」派は、脳にとってのご馳走を用意しなくては、まったく勝負にならないのだ。

では、対案があるかという、正直まだ見つかっていない。

唯一、可能性があるのはこんな感じではないか。

魂の連続性なんて無いんだよ。もって生まれた意味も役割もない。

だからこそ、今ある環境で精一杯楽しもうじゃないか。

## お金の話

---

お金は人間にとってかなり大きな発明だった。

しかし、今、人間はお金の限界を思い知らされた。

人間にとってお金はとても便利だった。しかし、頭のいい人達がお金を使って人類の支配を思いついた。その作戦はとても良く出来ていた。脳が喜ぶ刺激的なものをどんどん作り出して、人類をお金中毒にしていっていった。

しかし、作戦はほころび始めた。何故？

一番の理由は何か、それは脳が飽きてしまったのだ。

刺激的なものを継続的に与えると、それが普通になりやがて退屈になる。

思った以上に、脳は貪欲で、直ぐに飽きてしまう。ここが誤算だった。

飽きてしまった脳は、次の刺激を求めている。

そこで、目をつけたのがお金を手放すことだ。それは、現代の人にとっては未知の世界で刺激に溢れている。

お金を手放すと何が起こるだろうか。

単純にお金を手放すだけだと、貧乏になって惨めな生活を送るだけになってしまう。

では、どうするか。食料はなるべく自分で調達すればいいのだ。

こういう話をすると、直ぐに自給自足と思いがちだが私は自給自足とは思わない。

最低限のお金は今後も必要だと思う。ここは疑う余地が無い。

ただ、なるべく、身の回りで食料を調達するように努める。

いわゆる地産地消の促進だ。食料自給率100%は国にとって最低限必要で国策にするべきだと思う。

グローバル化という考え方は、はっきり言ってお金を使わせるための口実で押し付けられた価値観だと思う。

先ずはお金を使わないで食べることに困らない仕組みを作ること、これこそが人類にとっての次なる大発明となる。